



ふねあいのひろば

第2号

発行
岡山市国際交流協議会
事務局
岡山市市長公室秘書課
電話(0862) 25-4211



(写真は「岡山・サンノゼ・フレンドシップフェア」のテープカットの場面)

ごあいさつ

岡山市国際交流協議会会長
梶谷 忠二

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様方におかれましては、御家族おそろいで輝かしい新年をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。

一昨年4月に新発足いたしました本協議会も、早いもので今年で3年目を迎えようとしており、この間着実に交流の輪を広げることができました。

これもひとえに会員皆様方の御支援と御協力の賜ものと厚くお礼申し上げる次第でございます。

さて、岡山市とサンノゼ市が昭和32年に姉妹都市縁組を結んで、今年5月で満30年を迎えようとしております。これを記念して、昨年10月、サンノゼ市長をはじめとする親善訪問団の一行33人をお迎えして、『岡山・サンノゼ・フレンドシップフェアとアメリカ展』をはじめ、種々の記念行事を実施いたした

ところであります。

実施にあたりましては、ボランティア通訳の皆さん、ホームビジットの引受家庭、さらに会員の皆様方の御協力をいただきながら、実り多い交流ができたと考えております。

このように市民対市民の心のふれあう交流を深め、相互理解と友好親善を深めることは、国際化が叫ばれる今日、ますます重要になってくるものと確信する次第であります。

新しく迎えた本年は、サンノゼ市で30周年記念事業を実施する年にもあたり、市民レベルの交流を一層推進してまいりたいと考えておりますので、一層の御支援と御協力をお願い申し上げ、新年のごあいさつといたします。



岡山市・サンノゼ市姉妹都



30周年記念事業をふり返って

岡山市・サンノゼ市姉妹都市縁組30周年
記念事業実行委員会委員長

岡山市長 松本 一

昭和32年5月に岡山市とサンノゼ市が姉妹都市のちぎりを結んで、早いもので30年の歳月が流れました。

締結当時、私も市議会議員として、両市の縁組をとまにお祝いした一人でした。30年前、姉妹縁組を記念して岡山城に植樹された小さなレッドウッドの苗木は、今では30メートル近い大木に成長し、大地にしっかりと根をおろしております。

それは、あたかも30年間にわたる交流の年輪を刻んできた生証人として、風雪に耐えながら雄々しく成長してきたと考えるのであります。

さて、30周年という節目にあたり、これまでの両市間の交流をふり返り、21世紀へ向けての新たな出発点とするため、種々の記念行事を実施いたしました。中でも、『岡山・サンノゼ・フレンドシップフェアとアメリカ展』は、今回の一イベントとして一週間にわたって天満屋で開催し、期間中多くの市民の御来場をいただいたところです。

このフェアを通して、サンノゼ市に対する理解が深まり、11,200キロ離れたサンノゼ市が、より身近かな存在として感じていただけたものと信じております。

サンノゼ親善訪問団の皆さんにとっては、わずか3日間の岡山の滞在でしたが、市民一人ひとりの心づくしの歓迎と普段着のもてなしによって、岡山に対する理解と親しみを深めて帰国されました。これもひとえに会員の皆様をはじめ、市民各位の御支援と御協力の賜ものと厚くお礼申し上げます。

特に記念事業の実施にあたりましては、岡山商工会議所、ジェット岡山事務所、岡山市国際交流協議会さらに榊天満屋の絶大なる御支援をいただき、重ねて厚くお礼申し上げます。

このたびの交流を通して、私は両市の間に30年間にわたって育んできた友情と信頼の絆の太さに、あらためて感銘を深くしたのであります。

今後、国際化が一層進展し、世界各国との関わりが強まり、共存共栄を図っていかねばならない時代の流れを思うとき、国レベルの外交以上に姉妹都市間の交流は、ますます重要性をおびてくるものと考えます。

このためには、グローバルな視点から姉妹都市活動を見つめ、より広い分野にわたる市民レベルの交流を一層推進しなければならないと痛感いたしました次第です。



◀写真左

昭和32年5月に植樹された
レッドウッドの苗木



◀写真右

現在のレッドウッド



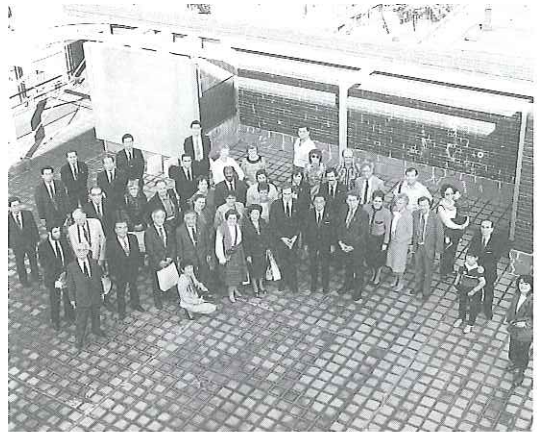
市縁組30周年記念特集



交流の足跡

10月9日(木)

サンノゼ市親善訪問団一行が13時58分着ひかり163号で元気に岡山入り。駅頭で市民と関係者の歓迎を受けた後、岡山市長、岡山市国際交流協議会長、岡山市議会議長、岡山商工会議所会頭を表敬訪問。夜、歓迎レセプションに出席、市民と歓談、交流を深めました。



市長表敬訪問後、市役所屋上で市内 360度の展望を楽しんだ。



岡山市消防音楽隊の歓迎演奏のなか、岡山駅到着。市民と関係者の温かい歓迎を受けた。



歓迎レセプション
本協議会会員をはじめ 300人の市民が、訪問団の来岡を歓迎。友情の美酒に酔った。



市長表敬訪問
松本市長の歓迎の挨拶のあと、マツケナリー市長が岡山訪問の挨拶。



岡山・サンノゼ両市の30年のあゆみを支えた、寺田、松本、田淵、岡崎（左から順に）の歴代市長。



市長表敬訪問の席上、パシフィックネイバースから岡山市に、カリフォルニア州の州木であるレッドウッドをプレゼント。

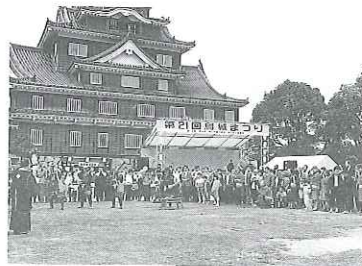


会場では、日本舞踊、備前太鼓唄獅子舞い、三味線餅つき等の伝統芸能が披露された。



10月10日(金)

午前中「岡山・サンノゼフレンドシップフェアとアメリカ展」の開会式に出席。午後からは、烏城まつりの見学とオープニングセレモニーに参加した後、訪問を記念して、西川緑道公園にバラを植栽。
夜、市民の家庭にホームビジットし楽しいひとときを過ごしました。



岡山城の天守閣前で、烏城まつりパレードの古式ゆかしい出陣式を見学。



天満屋で開催のフレンドシップフェアのオープニングを祝って、訪問団全員でくす玉割り。

表町商店街で行われた烏城まつりの開会式に参加、オープニングに花を添えた。



アメリカ製大型オートバイの先導で、烏城まつりのパレードに参加。



フレンドシップフェアの会場風景は、OHKが放送衛星を通じてサンノゼ市へ同時中継。



西川緑道公園に、世界平和の願いを込めて、ピース(平和)という品種のバラを植栽。

即売コーナーには、牛肉やワインのほかアメリカ産品がところ狭しと並べられ、市民の好評を博した。



児童画展では、サンノゼ市の小・中学生の描いた絵画を展示。見学者の目を楽しませた。



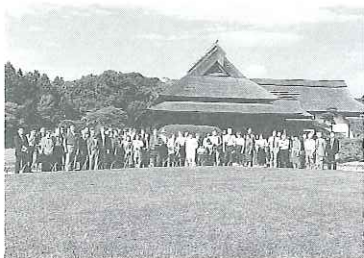
訪問団は2、3人ずつに分れ、市民の家庭を訪問。心尽くしの手料理に舌鼓。数時間の団らんを楽しんだ。





10月11日(土)

訪問団の皆さんは、多忙なスケジュールにもかかわらず元気いっぱい。午前中、後楽園を散策した後、御座船で多島美を誇る瀬戸内海と建設中の瀬戸大橋を見学。夜、サヨナラパーティに出席、最後の夜を楽しみました。



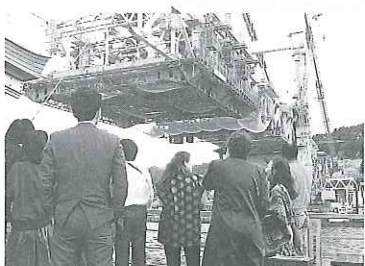
早朝の後楽園を散策。築造の歴史や園内の名所について説明を受けた。

園内では「ワンダフル!!ビューティフル!!」の連発。岡山の秋を満喫。



江戸時代の御座船を再現した遊覧船で、岡山港から3時間余りの瀬戸内海クルージングを楽しんだ。

船内では三曲の演奏や抹茶の接待が行われるなか、話はずんだ。



建設中の瀬戸大橋を目の当たりにして、「サンフランシスコの金門橋よりグレートだ!」との声も。



岡山最後の夜でのサヨナラパーティ。3日間の思い出を語り合い、再会を誓った。

パーティの席上、梶谷会長から10月に誕生日を迎えた訪問団員に記念品をプレゼント。



10月12日(日)

多くの市民と友好を深め、数々の思い出を胸にサンノゼ市役所関係者は午前8時29分のひかり181号で名残りを惜しみながら岡山を後にしました。一方、パシフィックネイバース関係者は、曹源寺で開催された「交換学生との交流会」に参加。岡山の秋を満喫し、翌10月13日午前9時57分のひかり93号で離岡しました。



パシフィックネイバース関係者は、曹源寺での元サンノゼ交換学生との交流会に参加し、座禅を体験。

曹源寺の庭園では、昼食ガーデンパーティが行われ、思い出話に花が咲いた。





シーユーアゲイン

ボランティア通訳 小野展毅

市役所よりサンノゼ記念行事に通訳として参加の通知を頂いたのは8月28日であり、その参加要領の説明会は9月20日でありました。訪問団の到着が10月9日でありましたので、この行事を成功させるために私は私なりに大いに努力しようと考え、広く市民の方に知ってもらわねばいけないので、私が接する人々に行事のPRに努めました。天満屋の会場にいらして下さい。岡山城にいらして下さい。そしてサンノゼの人々と話して下さい。その告知のかいあって何人かの友人が天満屋の会場に来て下さって、訪問団の人と接して下さいしたのは、私の喜びでした。

特に木下商工㈱の木下社長さん、80才の高齢の方ですが、昨年4月よりNHKの基礎英語放送番組を聞いて英語の勉強をなさっていらっしゃる方が、サンノゼ市の女性の市議会議員、ナンシー・アイア二さんと話を楽しんで下さったのも印象に残る一コマでした。彼女は知的な美人で、そしてさわめて行動的な魅力あふれる女性でした。サンノゼ市の議員定数は10人であると言われておられ、彼女の活躍ぶりが目に見えるようでした。

クラッグ御夫妻ともよくお話しました。もの静かな御二人は1926年と1922年生れの元医師と看護婦さんのカップルです。西歐人の夫婦の典型な方々で、共に愛しあいつくしみ合って人生を行くといった感じの方でした。今年予定されている岡山よりサンノゼ行の訪問団は是非カリフォルニアにいらして下さいと言われました。

33人の訪問団の会員とお話は出来ませんでした。大へん楽しい3日間でありました。通訳の皆様今後ともよろしくお願ひします。



御座船のデッキでクラッグ夫妻と：左端が筆者



御座船のデッキでサンノゼ市長と：右端が筆者

30年の友情に乾杯！

チャース

ボランティア通訳 米山朱実

この記念事業では、ボランティア通訳としてお手伝いするはずの私でしたが、逆に多くのことを得、たとえ様のない素晴らしい思い出になりました。岡山・サンノゼ両市に関して何の知識もないままこの企画に飛び込みましたが、丁寧に迎えて下さる市役所の方々、親しみのあるボランティア通訳の方々、気軽に冗談の言い合えるサンノゼ市の方々のあたたかな空気の中で、不安も忘れ、心から楽しませていただきました。

色々な世代、社会の方々との会話で、サンノゼ市の歴史や町の様子を学び、また個人的な興味の話をして行くうちに、サンノゼに行ってみたいと思うようになりました。特に、船上でハンマー副市長と焼きイカを食べながら、日頃からご自分で調理して食べていらっしゃるという驚きました。日本人の多い土地柄、日本人がおいしいと思うイカを同じようにアメリカ人もおいしいと思うのは当然で、食生活まで文化が交流しているのでしょうか。異文化に触れ、受け入れて行くことが、独自の文化をより豊かにすることの証明を見ているようです。

人と人から始まった友情も、文化と文化、国と国、規模が大きくなるにつれて、その原点を忘れがちですが、両市は30年もの間、行政上だけでなく、留学生の交換、商工会議所の縁組と、民間レベルで交流を続けていらっしやることを強く感じ、その両市の友情に、心から「おめでとう」の言葉を送りたいと思います。これからますますその友情を深めて、市民の皆様一人ひとりにその輪を広げて行かれることを願っておりますし、また次の機会にもぜひ参加して、お手伝いして行きたいと思ひます。



ホームビジットとビデオ

ホームビジット引受家庭 加笠 和子

10月10日 サンノゼパシフィックネイバース会長マクレランド御夫妻を我が家に迎える。タタミに坐るのは初めての経験とかで、お茶と和菓子でくつろいだあと、早速ビデオをお見せする。

私共は姉妹都市からのお客様のお世話をはじめから12年になる。交換学生の我が家でのステイ風景をホームビデオに撮ってからでも8年になる。「ワウ！トニーメイ！ワン・オブ・マイ・ベスト・フレンズ！」思わずマクレランド氏の顔がほころび、拍手がおきる。メイ氏は4年前、25周年記念事業で来岡されたサンノゼ芸術家グループの画家夫妻。一週間程わが家に滞在され、そのとき主人の撮ったビデオの一部が、息子の弾く「サンホセへの道」をバックにNHK朝のニュースワイドで放映された。

サンノゼの交換学生や市民がこんなにも身近に、岡山の家庭の中にとけこんでいる様子を見て、姉妹都市友好団体の会長としても、マクレランド氏は大変感動され、今回の岡山訪問のビデオもぜひサンノゼへ持って帰りたいといわれる。(翌日の御座船のビデオ共々さしあげた)

12年前、小1だった息子も今年東京の大学へ巣立って行った。今までホスト役をしてくれた息子に代って今回は、近所の高2の女の子が華を添えてくれた。おばあちゃんが作ってくれたという田舎のまうりずしをもてなす和服姿の娘さんに、マクレランド夫妻は目を細める。

ホームビジットの夜はあまりにも短い。話の花が咲く頃には、ホテルへお送りしなければならない。話しのつぎは明日の御座船で、と。イルミネーションが輝く岡山の夜景をバックに、ホームビジットが描き出した岡山・サンノゼ友情の輪は又大きく広がってゆく。



左から2番目が筆者



中央和服姿が筆者

5年目の再会

ホームビジット引受家庭 山下容央子

「あ、ジャネット、靴」「まあ、車の中で家の中に入る時は靴をぬぐ事と何度もいいながらきたのに、懐かしい顔が一杯ですっかり興奮してしまって」カネモトさん、ラルフ、ジャネットをむかえてのホームビジットはこのようにして始まった。

交換学生だったN子さんはカネモトさんの側に座って話している。日系人として初の判事職を務めた思慮深く温かい人柄のカネモトさんには、交換学生はもちろん、岡山からサンノゼを訪れた多くの人がお世話になった。5年前、一家4人でサンノゼ滞在中の私共も、カネモトさんから受けたアメリカンホスピタリティは、丘の上のお宅から見たサンノゼの夜景と共に美しい思い出として忘れられない。

ジャネットに会うために広島からかけつけたH君は、誇らしげにフィアンセを紹介している。彼女はいつも学生をホームステイさせていた。一身上の大きな悩みをかかえている時も、学生にはそんな素振りもみせず細やかな心配りをして。大学の勉強と国際交流の仕事との板挟みで学生が困る時、彼女はいつも学生の味方だった。

ホームステイをさせる理由をきいた時「楽しいがらよ。学ぶことがたくさんあって」と答えた。そのジャネットの夢だった日本旅行が実現したのだ。やさしかったアメリカン・マザーを慕って九州や大阪から集った人達と抱きあっている様子を、伴侶のラルフがビデオに撮っている。

5年ぶりの再会は、懐かしく温かくにぎやかだった。サンノゼ滞在中の好意に対してお礼がしたいと思っていたのに、又三人から心の中に温かい物をたくさんもらってしまった。



ふ



2月19日から3月6日まで、市内の喫茶「サンホセ」でサンホセ市展が開催され、現地の写真、ポスター、民芸品などを数多く展示、市民の関心を集めた。



2月26日、友好都市洛陽市が所在する河南省から、蔡流海河南省人民政府外事弁公室主任を団長とする河南省人民政府代表团一行ら人が来岡。都市間交流について意見交換を行うとともに友好を深めた。



3月3日、フィリップ・シムスサンノゼ商業会議所副会頭（現会頭）が、ジェットロ主催の日米姉妹都市経済交流促進事業の一環で来岡。岡山市、岡山商工会議所などと今後の経済交流等について懇談。

れ

あ

い



昨年5月、市民レベルの国際交流を一層推進するためホームステイ・ホームビジット引き受け家庭登録制度がスタート。現在までの登録家庭は、サンノゼ交換学生の引き受け希望を含めて41家庭。（写真は、岡山・サンノゼ30周年記念事業におけるホームビジット先での一場面。大久保敬雄さん宅にて）



国際交流に対する市民の理解を深めていただくとともに、外国からの来訪者に岡山市の国際交流活動を知ってもらうため、国際交流シンボルマーク入りのTシャツを作成。（6月）



6月28日、姉妹都市サンノゼ市から第28回目の交換学生、エルソン・ユージーン・ボールズ君(23)とポール・アンドレー・ノエル君(19)の二人が親善大使として来岡。



ト

ピ

ツ

ク

ス



7月15日から22日まで、宗政太郎岡山市連合町内会長を団長とする岡山市連合町内会友好訪中団一行15人が訪中。洛陽市をはじめ中国各都市を訪問し、市民レベルの交流を深めた。



芳泉中学校(990人)とサンノゼ・オークグループ校(846人)が参加して、恒例の中学生親善交換学術大会が行われた結果、同点となった。18回を数える大会の中で、同点となったのは昨年度が初めてのこと。(写真は、10月に行われたトロフィー贈呈式)



7月22日、サンノゼ市交換学生の来岡を歓迎し、会員との親睦をはかるため「交換学生を囲む会」を岡山市勤労者福祉センターで開催。(参加者50人)



10月13日、サンノゼ市との交換学生制度の提唱者で、元パシフィックネイバース会長のウエイド・ホーバー氏が夫人とともに来岡。2週間余り岡山市津島公館に滞在し、多くの友人と旧交を温めた。



7月18日、洛陽市の技術研修生、朴静子先生(内科医師)が、岡山での一年間の研修を終え帰国。同先生は、市立市民病院を中心に、国立岡山病院、心臓病センター榊原病院で熱心に研修。



12月2日、姉妹都市であるブルガリアのプロプティフ市出身の著名なピアニスト、ミルチョ・レビエフ氏が、オリエント美術館で開催された「ジャズの夕べ」に出演するため、ベース奏者ディブ・ホランド氏とともに来岡。市長表敬訪問の際、プロプティフ在住の兄の画家ヨニ・レビエフ氏の風景画を岡山市に贈呈した。



☆☆☆☆☆☆ My Memory サンノゼ ☆☆☆☆☆☆

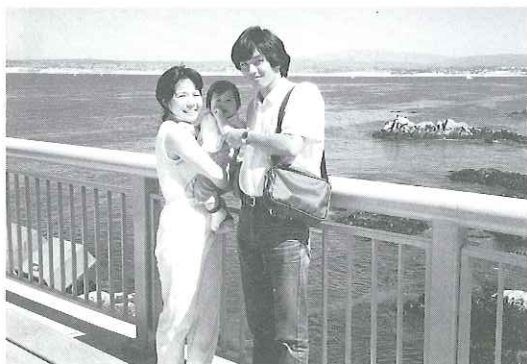
昭和60年度サンノゼ派遣交換学生 藤本 健一

「どうだった、サンノゼは？」帰国後、何度となく尋ねられるこの質問だが、いまだにいつも一瞬、言葉に窮してしまう。「楽しかったよ」の一言では言い表しきれない数多くのことを体験した一年間だったが、むしろ、想起するのは異文化の中で四苦八苦した時のことが多い。

サンノゼ大学での講義の初日、期待に胸をときめかせ教室へ入った。すでに20人余の学生が席についていたが、その中で日本人が自分ひとりということに改めて認識したとき、ふと不安に襲われた。やがて、先生が入室、授業が始まったが、その進行がまた日本の大学とは大違い。黒板を全く使わず、教科書も参照せず、ほとんど休みなく話しまくることで終わったのである。しかも、まわりの生徒たちは平然とし、むしろ、積極的に質問を投げかける。アメリカ人のパワーの一端を見せつけられた思いがした。さして予備知識のなかった僕は、瞬時にして混乱に陥ってしまった。

次の授業の日、思い余って、その先生に直接、前回聞きそびれたこと、授業方式のことなどを質問に行った。すると先生はこの僕を大歓迎してくれて、詳しく教えてもらえたばかりでなく、面倒見のいい生徒まで紹介してくれたのである。「よく来てくれたね」と言って、にこやかに手を差し伸べてくれたこの先生は、その後授業以外でも大変お世話になり、思い切って尋ねてよかったと思った。

サンノゼで得た数あるもののなかで、まず最初に挙げられるのはやはり人。この先生をはじめ、多くの人々と握手を交したが、彼らの手の感触をいつまでも忘れずにいたいと思う。そして、いつか再び彼らと、また、さらに多くのサンノゼの人達と手を握り合い、その絆を深めてゆきたい。
(現在、岡山大学4年在学中)



モンレーの水族館でパンフィックネイバースのシャロン・ヒロサワさんと：右が筆者



ルネッサンスフェアで藤本君と：左が筆者

昭和60年度サンノゼ派遣交換学生 鷹取 規子

親元から離れて暮した事も、飛行機に乗った事さえ無かった私にとって、交換学生としての経験は、すべてが初体験でした。8月というのに膚寒いサンフランシスコ国際空港。初めて見る、大勢の外国人。しかし、本当は自分の方が外国人なのだ、と思うと、不思議な気分でした。

サンノゼでの生活は、楽しい事でいっぱいでした。実際には、生活習慣や考え方の違い、言葉に不慣れな事などから、いろいろと苦労もありましたが、恥をかき、当惑しながら、膚でアメリカを理解し、英語に慣れていく事は、楽しい事の一つだったように思われます。

家庭生活、学校生活、そして親善活動。それぞれに、忘れられない思い出があります。家族の一員として迎え温かく見守って下さった引受け家庭の方々。たくさんのパーティ。はげましあい、ぐちをこぼしあつた留学生仲間。何かある度に相談に乗り、力になって下さったパンフィックネイバースの方々。そして、親善活動、特に学校訪問は、私にとって、日本の文化について改めて考えるチャンスと、大きな自信を与えてくれた大変貴重な経験となりました。

飛行機の窓から、遠くなっていくゴールデンゲート・ブリッジを見ていると、胸が熱くなり、涙があふれてきました。あつという間の1年だったけれど、大勢の方々のお世話になりながら得た、たくさんの思い出と、ずっしりと重い経験を、決して無駄にしないよう努力しなければならぬ、と感じています。

(現在、岡山大学4年在学中)



☆☆☆☆☆☆ ☆☆☆ **会** ☆☆☆ **員** ☆☆☆ **の** ☆☆☆ **広** ☆☆☆ **場** ☆☆☆☆☆☆☆

洛陽市を訪ねて

岡山市連合町内会長 宗政太郎

岡山市連合町内会では、市民レベルでの国際交流を推進しようと、初めて昨年7月に、友好都市洛陽市など5都市の親善訪問を行いました。

8時間半の列車の長旅を終え、西安市から洛陽市へ到着したのは、中国訪問4日目の夕刻でした。列車の遅れにもかかわらず、洛陽市関係者のプラットホームまでの出迎えをいただき、疲れもふきとんで二ハオで握手。

私は、昨年1月に続き、洛陽市は2度目の訪問でしたが、このたびは、連合町内会の事業として行ったものであり、感慨新たなものがありました。

洛陽友誼賓館での武振国市長ほか関係者への表敬訪問。続いて催して下さった歓迎パーティを通じての心温まる歓迎となごやかな交流は、心に深く残る思い出となりました。

市内見学のバスに同乗された方双建さんの流暢な日本語による案内は、親しみを感じさせ、炎天下、龍門石窟を見学したあとのよく冷えたコーラの味とともに、忘れられないものとなりました。

行きとどいた心づかいをいただき、また、好天気恵まれた楽しい2日間は、あっという間に過ぎ、感謝のパーティでカンペーと握手を繰り返し、なごりを惜しみながら洛陽市をあとにしました。

数か月を経た今日も、握手した武市長の手の温もりがはっきりと思い出されます。

政治体制等は異なっても、日本と中国とは一衣帯水の国、市民レベルでの親善を更に深めてまいらねばと考えております。



歓迎パーティであいさつをする筆者：左から2番目



サンノゼ商業会議所との姉妹縁組調印式

商工会議所姉妹縁組

㈱服部興業取締役社長 服部弘平

アメリカ西海岸の田舎町から短期間のうちにシリコンバレーの中心地へと大発展をしたサンノゼ市へ、今年の6月、岡山商工会議所の伊原木会頭のお供として訪問する機会がありました。

サンノゼと岡山の都市間の交流は、昭和32年より日本で3番目の外国との縁組として長い歴史がありながら、経済面での交流が育ちにくく、今年になってやっと両商工会議所間の姉妹縁組を正式に調印することとなったようです。

調印式も、我々の歓迎パーティーも、会頭が共に40代と若いためか、肩がこらずそれでいて礼を失しないなどやかな雰囲気でしたが、老若男女を問わず、常にジョークと笑顔を忘れないアメリカの国民性には改めて感心し学ぶところが多かったと思います。一国家単一民族の我々にとっては考えられないようなアメリカの歴史的背景がごく自然に笑顔や独特のジェスチャーなどを生ませたのかも知れませんが、人間関係をスムーズに進めるには最高の潤滑油だと感じました。

この度の商工会議所の縁組を新たな機会としてサンノ



サンノゼ市内の企業にて：左が筆者

ゼ市と岡山市の多角的交流を一層深めるために私も何かのお役に立ちたいものと思っています。



伝言板 長言板

ボランティア通訳・翻訳制度の活用を！

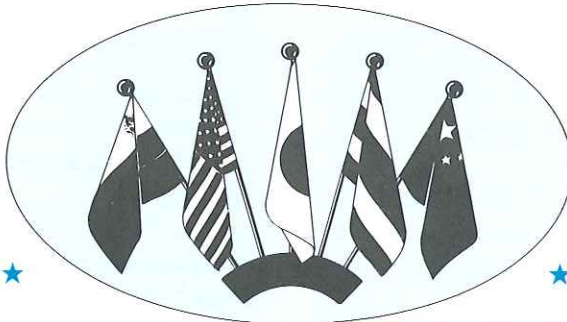
—昨年7月にスタートした「ボランティア通訳・翻訳制度」もすでに一年半が経過しました。現在までにボランティアとして10か国語69人の方々に登録いただいております。手紙の翻訳や観光案内など交流の橋渡し役として幅広く御活躍いただいております。

言葉の壁でお困りの方、またはそのような方を御存知の方は、ドシドシお申込みください。

○観光案内の通訳の場合……岡山市観光協会（電話25-4211、内線2562）または、岡山市観光案内所（電話22-2912又は24-2572）

また、市内のホテル・旅館に問い合わせいただいても結構です。

○観光案内以外の通訳または翻訳を希望される場合は、本協議会事務局までお問い合わせください。



ホッ人 三二情報

- 昨年5月、サンノゼ・パシフィックネイバーズの役員改選が行われ、会長にハワード・スターン氏に替ってブルース・マクレランド氏が就任。また、副会長（交換学生担当）のミシェル・ドナヒューさんの後任にサリー・フジワラさんが就任。
- 昭和58年度のサンノゼ交換学生マーガレット・ファーンズワースさんが昨年6月めでたく結婚にゴールイン。
- 61年度のサンノゼ交換学生エルソン・ポールズ君は、昨年11月末で親善大使としての役目を終え、12月から市内の英会話学校の講師として再出発。
- ブルガリアのプロパティフ市長にフリスト・ミシェフ氏に替ってストヤン・コシユレフ氏が就任。
- 市内ライオンズクラブ写真同好会の有志が、岡山市を紹介する写真パネル15点を洛陽市へ寄贈。本協議会では、これに6点を加え洛陽市へ送付。
- 洛陽市の所在する河南省と三重県が、昨年11月19日友好県・省の縁組を締結。

姉妹都市サンホセ市展の開催について

岡山市とサンホセ市は、昭和44年1月27日姉妹都市縁組を締結しました。このたび、小さな親善活動ですが、第2回のサンホセ市展を開催したいと思っておりますので、会員の方々の御協力を賜りたいと思っております。

記

★日時

- 展覧会 昭和62年1月21日(水)～2月2日(月)
午前10時～午後7時（平日）
正午～午後7時（日曜・祭日）
- 親睦会 昭和62年1月31日(土) 午後6時～
会費 3,000円（中南米料理で）

★場所

ギャラリー「サンホセ」
岡山市駅元町21-11 (Tel)53-2664

★お願い

コスタリカの情報(写真・その他)をお持ちの方は、展示に御協力いただきたいと思っております。

(お問合わせ先)河原 馨
(協議会会員)Tel53-7341



■こちらデスク■

新年あけましておめでとうございます。
「ふれあいのひろば」第2号を、このたび新春号として発行することができました。

昨年は、種々の国際交流の輪が広がった一年でしたが、やはりメインは、サンノゼ30周年記念事業。

6月には、この記念事業の最終協議のため事務局からもスタッフの一員として訪米。短期間で超ハードスケジュール、時差ボケと睡眠不足で、「カリフォルニアの青い空」が若干黄ばんで見えたとが、見えなかったとが？

その後の準備に事務局一同悪戦苦闘の毎日。100%の準備を目指したものの、結果は？%のデキバエ。しかし、サンノゼの皆さんから「素晴らしい歓迎をありがとう。」の言葉を聞き、それまでの苦労も今では楽しい思い出に。

この記念事業に賜りました会員皆様方の温かい御支援、御協力、誠にありがとうございました。

今年は、サンノゼで30周年記念事業を行う年。その他心のふれあう国際交流を深めるため、スタッフ一同頑張りたいと思っておりますので、旧年の御支援、御協力を！